

作成日：平成 19 年 2 月 23 日

報告者 平松謙治

(みなとクラブ)

## 京都国際マンガミュージアム 行政視察報告

日時 平成 19 年 1 月 25 日 (木)

場所 京都市国際マンガミュージアム

主要目的 市と大学の共同事業・「国際マンガサミット」について

面談者 京都市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課長 宮田 英喜 氏

(同部) 京都国際マンガミュージアム担当係長 白波瀬 克則 氏

視察者：渡辺明彦、平松謙治

### 施設概要 (別紙参照)

#### 設立の経緯

京都精華大学よりミュージアム建設の計画があがる。建設費総額 12 億円は、国 (文科省) が大学へ多額の補助、京都市は、1 億 2,000 万円。ランニングコストとして市は、土地の賃借料を無料。運営費は、すべて大学負担 (入館料収入は、あるが)。

#### 地域との協力関係

もとの龍池小学校は、近代教育制度前に町の区分で「番組小学校」として地域の方々によって立てられた学校であった。そのため現在は、市の所有であるが地域の賛同を得る必要があり、地域の方々のコミュニティスペースが内部には、ある。また、地域の祭りは、このミュージアムの庭で行われることとなっており、それを活用したイベントを模索している。

#### 著作権の問題

数多くのマンガを所蔵しているが、近代マンガには、著作権問題があり、ポスター・パンフレットなどの苦勞している。今後の大きな課題のようである。

#### 「国際マンガサミット」の開催について

平成 20 年に京都において「国際マンガサミット」が開催される。主体は、日本マンガ協会が平成 8 年に第 1 回のサミットが日本で行われた。韓国で行われたときには、26 カ国 300 人の漫画家が集まり、多くのファンがつめかけた。平成 18 年度国土交通省で「日本のアニメを活用した国際観光交流等の拡大による地域活性化調査」が行われており、このマンガミュージアムも平成 20 年度の「国際マンガサミット」に向け、国土交通省の関係で何らかの予算付けが考えられる。

## 考察

京都の街中にあるこのミュージアムは、ある種異質に感じた。しかし、中に入ると昭和の息吹を感じさせてくれ、日本のマンガ文化を学ぶことが出来る。

企画展を実施しているが著作権の関係で縛りが多い。2月から「ガンダム」の企画展が行われるが外部のプロモーションで行われる。水木先生との調整も必要であるが本市の「水木しげるロードや記念館」をモチーフとした企画展（境港市のPR活動として）を提案できないものかと考える。予算規模などの問題があるが、双方にメリットが考えられるので可能性は、高いと思う。

本年度、国土交通省で「日本のアニメを活用した国際観光交流等の拡大による地域活性化調査」を実施しており、本市の「鬼太郎」や北栄町の「名探偵コナン」も中国地方の4つの調査地区の中に入っている。今後、調査結果により、国の政策として何らかの事業が予想されるので、市としても国の動向を注視し、国の政策を有効に活用したいところである。